



安村芳彦社長

《やすむら・よしひこ》
1938年滋賀県生まれ。日
大芸術卒。63年フジイン
タナショナルコンサルタント
を経て、電通PRセンター
(現電通パブリックリレー
ションズ)入社。65年業界
初のパブリシティ専門のラ
ジオ・テレビ部を創設。99
年才企画を設立、社長に就
任。

才企画

国民の医療費が増加し続け健康への関心は高まる一方だ。PR業界でも医療・医薬分野は今後成長が予想されるだけに大きなテーマ。豊富な経験を生かしてサービスを伸ばす会社もある。

テレビ専門に露出

才企画はNHKや民放キー局をはじめ地方局のニュース番組や生活情報番組に、医療・医薬品、食品情報などを放映するのを得意としている。社長の安村芳彦さん(69)は、日大芸術学部を卒業し映画監督を目指していたが縁あってPR業界の草分け的な会社に入社。その後、設立されたばかりの電通PRセンター(現電通パブリックリレーションズ)に移った。「昭和30年代後半のこと

48

ニュースの
ザ・PR会社

映画館が上映の合間にやってきた映画ニュースを参考にしていた。企業の持っている産業情報をラジオやテレビのニュース、ドキュメンタリー番組向けの構成素材にアレンジし、情報提供活動をスタートさせた」と振り返る。

電波媒体を使ったPRのさきがけで、ラジオやテレビの番組によるパブリシティを

医療・医薬分野リード

現する新たなPR手法を開発した。大手洋酒メーカーのたる作りや電力会社のダム開発、中堅食品会社への集団就職などの企業情報を、世相を映す素材に編集した。

さらに、医療用医薬品の会社から、薬害問題や医薬分業体制といった業界周辺の問題に対処するための相談が寄せられるようになる。

「当時はキー局だけにとどまらず、メーカーの販促支援のために地方局まで対応することが多かった」という。製薬会社の医薬情報担当者(MR)は、病院の医師とコンタクトをとって自社製品の情報を売り込むことに懸命だ。各地の医師に地方局の番組に出演してもらうことで、製薬会社のPR活動を有利に進めることができる。そこで地方局の方法は同社の原型を作った。いま同社には医薬品、医療機器、食品のメーカー・業界団体から直接問い合わせや仕事が入ることもある。

最近では「日帰り手術」「C型肝炎とその検査と治療法」「肺炎予防とワクチン」「爪水虫の予防と治療」などのテーマを扱った。医療・医薬という専門性の高い領域でテレビに絞ったPRを手掛ける同社の存在価値は高い。